

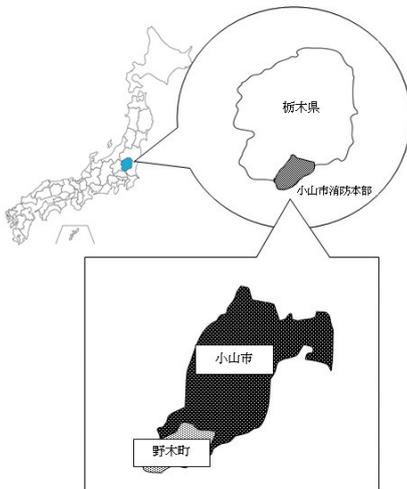
消防バイク・救急バイクを導入

栃木県 小山市消防本部

はじめに

小山市は、栃木県の南端で玄関口として位置し、東京から新幹線で僅か42分という立地で、鉄道、国道が共に交わる交通の要衝であり、「水と緑と大地」の豊かな自然と古い歴史を有するまちです。市の中心部には、母なる川「思川」が流れ、春には、市の花「思川桜」が岸辺を彩るほか、夏には花火大会などのイベントが行われており、県下第2の都市として躍進を続けているところ

です。消防本部は、昭和23年8月に県内最初の自治体消防として発足し、昭和60年4月には隣接する野木町の消防事務を受託し、管轄面積は201.86平方キロメートル、管轄人口は189,814人（平成25年4月1日現在）です。



なお、組織体系は、1本部（4課）、1署、5分署、職員198名（定員195名）で消防防災に取り組んでいるところです。また、発足65年目の平成25年、新消防本部庁舎竣工となり、同年9月17日より新庁舎での業務開始となったところです。

消防バイク・救急バイクの導入に至った経緯

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の際には、当本部管内においても震度5強の地震を記録し、4名の負傷者が発生したほか、半壊1棟、一部損壊約2,100棟、塀の倒壊等約1,100ヶ所の被害が発生しました。地震発生直後には市内全域が停電となるとともに、主要道路等は交通渋滞が多数発生したほか、各所において屋根瓦の落下や石塀の倒壊による交通障害の発生等も多くなりました。

今後、首都直下型地震等が懸念されているところでもあり、東日本大震災の経験からも、より迅速に被害状況を把握することが限られた消防力の活用や被害を最小限に抑える上で極めて重要であると考え、地震等による道路凹凸などの変形や渋滞などの際にも対応可能な機動力を持つ



新消防本部庁舎



消防バイク



救急バイク

自動二輪型の消防車両を導入することとなったものです。

また、当本部管内にあるラムサール条約登録湿地の『渡良瀬遊水地』は広大なヨシ原が特徴ですが、過去に消防車両が進入困難な場所での火災発生もあり、自動二輪型の消防車両の導入により、進入可能範囲が広がることから、火災初期対応の効果を期待しているところです。

一方、救急バイクについてもAEDや救急救命器材を積載させ、重複した救急事案発生時のB-A連携（バイク（bike）と救急車（ambulance）の連携）や四輪の救急車両が進入困難な場所等での救急事案対応を考慮し

導入したところです。

消防バイク及び救急バイク諸元

製作所名	ヤマハ
型式	XT250 (SEROW250)
全長	2,100mm
全幅	860mm
全高	1,257mm
定員	1人
車両総重量	158.8kg
ホイールベース	1,360mm
最小回転半径	1,900mm

消防バイクの主な積載品 (圧縮空気泡消火装置)

消防バイクの主な積載品として、背負い式タンク一体型の圧縮空気泡消火装置を積載しており、約50平方メートルの範囲で消火が可能で火災の初期対応に威力を発揮します。



救急バイクの積載品(手動式油圧救助器具)

救急バイクの主な積載品として、AEDや初期救急対応可能な救急救命器材のほか手動式油圧救助器具を積載しており、傷病者への迅速な応急処置や救出活動を可能としています。



消防バイク及び救急バイクの出動体制

消防バイク及び救急バイクはペア出動を基本とし、以下のような事案に出動することとしています。

- ①災害等の通報時にバイクによる活動が効果的であると判断される場合
- ②四輪消防車両での進入困難な場所での災害発生の場合
- ③現場最高指揮者及び消防署長による要請

このほか、火災予防運動期間中の広報活動や消防団通常点検、消防フェア等のイベントにおいても消防PRに一役買っているところです。



消防団通常点検パレードに参加する救急バイク



消防フェアにて消防バイク・救急バイク展示

終わりに

消防の使命は、住民の生命、身体及び財産をいかなる災害からも守り抜くことであり、未曾有の火災、災害等に対しても、日頃から様々な現場状況を想定し、万全の体制を備え、最善を尽くすことが重要であるところです。

当消防本部では、災害対応のひとつのツールとして消防バイク及び救急バイクを導入したところではありますが、ハード面のみでの体制作りではなく、若手職員の育成や職員の意識改革などソフト面でもこの消防バイク及び救急バイク導入を契機として、組織力向上に取り組み基礎力の充実と応用力の向上を図り、ハード面、ソフト面の両面から何事にも揺ぎ無い消防防災体制構築を行っていきたくと考えております。

今後は、消防バイク及び救急バイクを活用した新たな消防活動を見出し、全国に発信していきたいと思っております。